

69 富士写ヶ岳

942m

石川県

松井敏夫

日本各地に〇〇富士という山は多いが、〇〇写ヶ岳という山名は他にはないと思う。「富士写ヶ岳」と言うだけあって、加賀温泉駅近くから見れば、対称形の裾広がりを持つ山が見える。地名で加賀市山中温泉富士見町という場所があり綺麗に見えるらしい。



深田久弥は、小学校6年の夏、大聖寺学生会の主宰する登山に参加して山頂を踏んでいる。深田久弥は「私のふるさとの山は白山であった。」と言っているが、富士写ヶ岳も思い出深い山であるに違いない。地元の山中中学校校歌は「富士写す高嶺仰ぎて山中は…」で始まっている。地元の人々から親しまれている山と思われる。

JR加賀温泉の隣駅が大聖寺駅で、そこに「深田久弥 山の文化館」があるので、登山の前後に寄るとよい。

富士写ヶ岳は、春のシャクナゲと秋の紅葉の美しさに人気があり、その時期には登山者が多い。5月の連休には駐車スペースが無いこともありそうだ。また、一等三角点(点名:富士寫岳)でもあり、最近では遠方からも登りに来る者が増えたという。

登山口は、山中温泉側に我谷と枯淵(旧山中町枯淵)大聖寺側に大内の3つがある。なお、福井県丸岡町竹田から火燈山經由の縦走路が山頂に通じているが荒れているようだ。

山中温泉からタクシーで大聖寺川沿いの道を我谷登山口に向かった。バスは栢野までしか無く、栢野と我谷の間は歩道もない曲がった道で、途中には歩いていると車が危険な箇所が幾つかあるので注意が必要だ。

我谷登山口では、ダム湖(富士写湖)沿いの路上に駐車余地があり何台も止まっていた。トイレ・水場はないので、準備しておく必要がある。枯淵登山口も同様である。なお、大内登山口には駐車場があり、トイレも記念碑の建つ公園(150m南)にあるが、水場はない。

我谷登山口の吊り橋を渡って右に少し行くと道の左側に「富士写ヶ岳登山口」の道標があったが倒れていた。ここから左側の急斜面をジグザクに登っていく。30分程度で送電

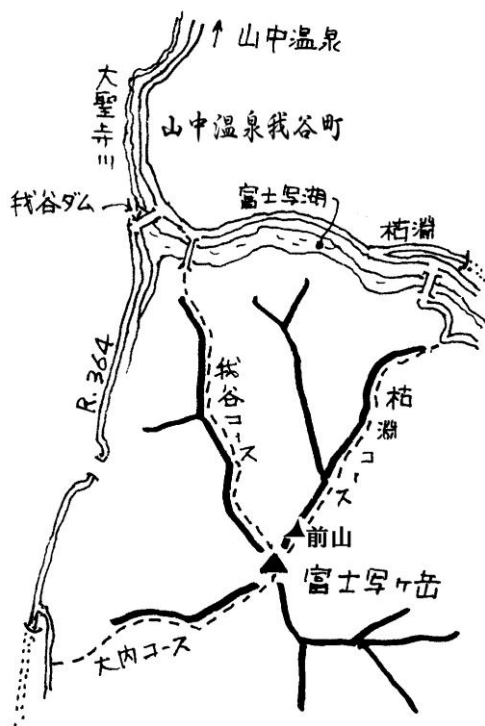
線の鉄塔があり休憩した。道は時々緩くなるが急登が続く。途中に、小リス平、ならの木坂、ブナ坂などの地点があるらしいが、小リス平に小さな標識があったほかは、どこかわからないまま通過してしまった。

岩のある尾根道に樹木が切れて展望できる場所があり、前方に大きく山が見えたが、これは枯淵からのコースにある前山で、右奥に隠れて低めに見えるピークが富士写ヶ岳だった。前山と富士写ヶ岳の鞍部に向かう急坂を登ると枯淵コースと合流し、そこから山頂は直ぐだった。休憩含め2時間10分を要した。

頂上は丸い広場で一等三角点が設置されていた。白山の山並みや笈ヶ岳、大笠山が見える。冬から初夏には白銀の嶺々が綺麗であろう。海側に市街地が見えるが、携帯電話の通話状態は1本建ったり消えたりだった。

下りでは鞍部から前山に寄った。深田久弥の歌碑があると聞いていたが見当たらなかった。小さな祠の側の木の枝にプラスチックケースが吊り下げられ、「山の茜を顧みて 一つの山を終りけり 何の俘のわが心 早も急かる 次の山 深田久弥」とあった。ここでは携帯電話の通話状態が1本建っていたので、タクシー会社に電話して1時間半後に我谷登山口に来てもらうことにした。

登ってきた道を下るが、思っていたよりも急だった。数日前に雨だったせいもあるのか滑りやすい箇所が幾つもあった。数カ所にロープがかかっている、軍手をして掴んで下ったものの、1回足を滑らせて尻餅をついてしまった。最後は急ぎ足で下って1時間半で登山口に到着できた。帰りは山中温泉の共同浴場で汗を流した。



二万五千円：越前中川・山中

交通機関：JR加賀温泉駅からバスで山中温泉バスターミナルまで30分（410円）、そこから我谷登山口までタクシー（2300円）

問い合わせ先：加賀温泉バス 0761-73-5070 石川交通（タクシー）0761-76-3131

最寄りの温泉：山中温泉